

市長記者会見

令和4年7月21日(木)

(時事通信)冒頭、市長、発言があれば、よろしくお願いします。

(上定市長)よろしくお願いします。今日は3点ございます。1点目が、コロナ感染の拡大の状況について、2点目、3点目は、小泉八雲と松江歴史館のイベントについてです。

まず、コロナ感染の状況についてです。月ごとの感染者数の累計が7月は今までの各月を大きく上回っており、1日当たり平均260人の感染が確認されています。日ごとの感染確認については、7月11日が448人と過去最多を記録しましたが、7月19日にさらに上回る647人となり、昨日、7月20日は398人と過去3番目の感染者が確認され、7月に入り、非常に多くなっています。年代別の感染確認の割合については、19歳以下の割合が6月は26.4%でしたが、7月は42.8%を占めており、若い世代の感染が非常に増えている状況にあります。各世代において感染が増えている状況です。集団感染の発生の状況は、7月は保育施設で9件、学校で12件、合計で32件発生しています。今日までのところで小・中学校は終業式を迎え夏休みに入りますので、今後、学校あるいは幼稚園でのクラスターは減ることが想定されるものの、逆に、夏は行動も活発になる、そして旅行シーズンにもなりますので、市民の皆さまには改めて注意喚起をさせていただきたいと考えています。

この夏に心がけていただきたいことについてチラシを作成し、公式ホームページなどに掲載し、また市報松江と一緒に各ご家庭に配布させていただきます。内容を少し説明しますと、1つ目が、基本的な感染防止対策の徹底です。これまでも繰り返し申し上げていますが、こまめな手洗い・手指消毒、場面に応じたマスクの着用、室内でのこまめな換気、3密の回避を改めて徹底していただきたいです。2つ目が、「うつさない・うつらない」を意識することです。少しでも体調不良を感じる事があれば、ためらわずに仕事や学校を休む、積極的に検査を受ける、かかりつけ医に相談、受診していただきたいです。具体的には、家庭内で感染を広げないために、家族みんなで健康管理を行い、タオル・コップなど各自のものを使用し、料理はあらかじめ取り分ける。また、運動前後の感染予防対策として、手洗い、手指消毒、試合中や着替え、移動時も換気をする、水分補給のときにおしゃべりは控える、運動時以外はできるだけマスクを着用してください。さらに、政府が提供している新型コロナウイルス接触確認アプリCOCOAについても活用をご検討ください。そして3つ目、ワクチン接種について、感染予防、発症予防、また重症化予防に、ワクチン接種の効果があると立証されていますので、この点をもう一度確認いただき、接種会場も集団接種・個別接種を設けておりますので、ご検討いただくようお願いします。

続いて、小泉八雲関連のイベントを2つご案内します。1つ目が、「ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト」の開催です。これまで毎年開催しており、今回で56回目、50年以上の伝統がある由緒正しいスピーチコンテストとなりますが、令和2年度、3年度については、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策ということで中止いたしましたので、3年ぶりの開催となります。このスピーチコンテストは、スピーチしていただく題材が小泉八雲の作品ということになり、それを英語で暗唱するコンテストになります。コンテストの開催日は9月25日、松江テルサで行う予定です。参加資格として、ジュニアの部は小・中学生、シニアの部は高校生となります。各部門とも1つの学校から2名以内の参加となり、場合によっては校内選考をやっている学校もあると聞いております。その申込みの締切りが8月19日となります。これまでも多くの方にご応募をいただいております。最後に開催した令和元年度は45名

の方に参加いただきました。また、その前年、平成30年度は54名の方に参加いただき、非常に人気のあるコンテストとなっております。審査の内容は、英語の発音や英語力ということもちろんですが、表現力も審査の対象というところがポイントとなっております。また、当日は、入場無料でどなたでも観覧できます。ぜひともスピーチコンテストにご参加いただき、また観覧し激励をしていただければと考えています。

次は、「小泉八雲をよむ」感想文・詩の募集です。こちら、長く、37回目となります。感想あるいは詩の対象となる図書は、小泉八雲にゆかりのあるものであれば、絵本や漫画でも構いません。小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部と分かれていて、その中で優秀賞、優良賞、佳作等を決定します。詩の形式は自由です。応募の締切りが来年の1月4日としており、こちら毎年、多くのご応募をいただいております。令和3年度は感想文が84作品で詩が51作品、令和2年度は感想文が127作品・詩が52作品、令和元年度は感想文が96作品・詩が41作品ご応募いただきました。ぜひとも小泉八雲の作品に触れ、その感想やそれをモチーフにした詩をご応募いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、松江歴史館の企画展「松江今昔」についてです。7月22日から9月25日まで開催されます。大正から昭和の松江の絵や写真を展示します。松江から多くの美術家あるいは文学者の方を輩出しているとともに、たくさんの方が訪れ作品を残しています。例えば、平塚運一さん、この方は津田のご出身で、松江市の名誉市民でもあります。また、三谷長博さん、この方も松江出身で東京藝大を出られ、宍道湖の夕景を描いた作品を残しておられます。今回、この松江城や宍道湖をはじめとした松江のまちや自然などを捉えた絵画や写真について展示します。松江市出身の方だけではなく、松江を訪れた方として、東京出身で、浮世絵版画の復興に尽力された川瀬巴水さんが松江において残された作品や、福原信三さんという資生堂の創業者の息子さんで、後に資生堂の初代の社長も務められた方は、中学時代に画家を志され、薬学についても同時に追求されて、今の千葉大学の医学部を卒業し、写真家としても活動されており、ヘルン旧居を収められた写真も展示しています。こういった著名な方の松江の作品も集めています。その中で、7月30日には小泉凡先生による記念の講演会もございます。「小泉八雲の五感がとらえた明治の松江」と題し、1時間半にわたる講演をしていただきます。八雲が愛した松江の風景、八雲が松江の風景に対して残した言葉についてお話しいただきます。そして、もう一つ、この展示会をするのに併せSNSの投稿企画を行います。これは、松江の風景写真をSNS、Instagram、ツイッターに「#とっておきの松江」という題名をつけて投稿していただき、松江市立皆美が丘女子高等学校の生徒の皆さんの審査によって、選ばれた方に松江の特産品などの景品を贈呈するものです。地元のお店で取り扱っているものを賞品としてご用意して、ぜひとも松江の優れた風景を再発見するきっかけになればと思っておりますので、ぜひご投稿ください。私からは以上です。

(時事通信) 先週のコロナ対策本部会議後、感染状況について、非常に厳しい状況が続いているという認識を示され、その後、昨日、647人と、市内の感染者数がまた過去最多を更新しています。改めて、現在の状況の受け止めについてお願いします。

(上定市長) 非常に深刻な状況が続いているという認識を持っています。もう一つは、フェーズが変わってきたといえますか、学校が休みになり、クラスターがかなり多く発生していた学校あるいは保育施設でのクラスターの発生というのはない状態になりますが、夏になり行動が活発化する、特に若い世代の方の行動範囲が広がることとなりますので、基本的な感染対策について、もう一度改めて確認し、一人一人の心がけでできるだけ感染拡大を予

防していくということのほかないと考えています。社会経済活動と感染予防の両立ということを考えながら、今後もこういった注意喚起について重ねて行っていきたいと思っています。

(山陰放送) 感染者の年代別の割合で、19歳以下が7月に入ってから増加に転じていて、集団感染も7月は保育施設や学校など、かなり増えているように感じます。7月に入り、なぜ増加に転じたと考えていらっしゃいますか。

(上定市長) これは保育園、幼稚園、小学校、中学校に限った話ではなく、島根県全体としても感染が非常に広がっており、いずれの年代からも家庭に持ち込まれて、その家庭の中で感染が広がり、その結果として特に学校・保育施設において感染が広がり、それがまた家庭に持ち込まれてという連鎖が起きてしまった感があると考えています。6月と7月を比べても、感染者の数自体が大きく増えていますが、その中で、特に若年層の感染の割合が高くなっているというところは注意すべきと考えていまして、若い世代の方に感染予防の心がけをしっかり持ってもらうことが重要です。学校という集団生活の中で感染が広がりやすい状況にあると思いますが、いずれにしても、一人一人の感染防止に対する意識や、実際行動に移していくことが大切だと思います。学校が夏休みに入った状況でも全く変わらないことですので、いま一度皆さんに徹底していただきたいと考えています。

(山陰放送) 今回、小泉八雲のイベントも3年ぶりに開催ということですし、水郷祭も今のところは開催に向けて準備を進めていらっしゃると思います。なぜ今、この感染者数が松江市では一番多いという時期にこうしたイベントを再開する方向に進んでいらっしゃるのかをお聞かせください。

(上定市長) まず、社会経済活動と感染予防の両立は非常に重要なことだと考えています。その中でポイントとなってくるのは、感染者数もちろんですが、病床の使用率、重篤化する方が多くなり病床が埋まるようであれば、もともと持病をお持ちの方や、新たに発症された方に対応できず医療崩壊のような状況が考えられます。ただ、幸いなことに、今回、オミクロン株のBA.5の特徴でもあるかと思いますが、重症化する方が非常に少なく、基礎疾患をお持ちの方は気をつける必要がありますが、島根県内でも重症者の方はゼロという状況の中で、いかに感染予防と付き合いながら社会経済活動を盛り返していくかという非常に難しい命題が求められています。その中で、感染予防対策の徹底ができないのであれば、イベントとしても中止なり延期せざるを得ないと思いますが、うまくコントロールできるものについては、今後、できるだけ実施の方向で考えていきたいと考えています。もう一つ、今後また逐一お知らせしますが、今、多くの感染確認が出ている状態の中で、松江保健所にかなりの職員を応援要員として送っています。そうしますと、市が主催するイベントについては、市の職員のマンパワーが必要になってまいります。保健所業務を優先するために、イベントの開催ができないものが出てくる可能性があります。できるだけ市民の皆さまの生活に影響がない形で、延期なり縮小なりという形でとは思っておりますが、皆さまにご理解いただいた上で、社会経済活動をいかに回復させていくかというところにも重点を置いていきたいと考えています。

(山陰中央新報) 松江保健所がかなり逼迫していると思いますが、今、どのような状況でしょうか。

(上定市長) 現在、保健所では、応援職員による増員を図ってまして、特に急増する感染者の方への陽性が確認された際の連絡というのをできる限り早くお伝えするようにしているところです。ただ、どうしても、人数が増えてくるものですから、検査された当日ではなくて翌日にかかってしまうこともあって、不安な日を過ごされている方もいらっしゃると思います。今回、また保健師等の増員も図り、可能な限り速やかな対応ができるようにと考えています。みなし陽性も含めて少し制度が変わってきたところもあり、陽性者、あるいはみなし陽性の方が確認されたときに、どういった形で通知をし、その後のフォローアップについていま一度確認をしているところです。できるだけ市

民の皆さまが安心に、安全に過ごせるような体制を今後も継続的に確保、維持していきたいと考えています。

(山陰中央新報) 今日、一旦人数は下がり、これから学校が休みになり、クラスターは減ってくるとは思いますが、対策本部会議で示された増員で当面は対応できるとお考えですか。

(上定市長) そうですね、先般100人規模で増員を図っており、当面はそれで乗り切れるよう、県とも連絡を取りながらやっております。今までは全ての方に対しての濃厚接触等の調査もしていましたが、支障のない範囲で、全員に対する調査ということは少し運用を変えていっておりますので、今の人数で当面乗り切っていけるのではないかと考えています。ただ、今後の状況が見通せているわけではありませんし、何か予断を持って人数の縮小等を考えるにはまだこのタイミングは早いと思っていますので、こういった事態が起こっても対応し得るよう、オール市役所としての体制、対応というのを考えてまいります。

(山陰中央新報) 先日、集団健診の中止というのがありました。今後、そうした中止とか業務縮小とかいうところで、何か予想されるものが何かありますか。

(上定市長) そうですね、松江城でのイベントなど幾つか中止にせざるを得ないものがあり、小まめに発表させていただきます。先ほどの乳幼児健診は、中止ではなくて延期にしたもので、そういった市民生活に欠かせないものについては、延期あるいは縮小というような形でできるだけ続けていきたいとは思ってまして、随時また皆さんにお知らせしてまいります。

(山陰中央新報) 保健所が逼迫すると職員の時間外労働というところが課題になってくると思いますが、どのように対応していかれるお考えですか。

(上定市長) 今回、職員を任期付きの職員も採用し、人数の拡充も図っています。市の職員を保健所に派遣しているという部分と、応援要員として派遣している部分と、新規に採用した職員もおりますので、できるだけ一人に負担が偏らない形でうまく配置を工夫し、1人当たり負担が大きく、過剰なものにならないように調整しながら当たってまいりたいと思っています。

(山陰中央新報) 行動規制については、どのようにお考えですか。

(上定市長) 社会経済活動と感染予防を両立について色々な工夫をしていきたいと考えていて、行動規制というところから入るのではなく、生活を営むためにできる限りの努力をした上で、仮に何らかの事情でどうしても制限を強いることがあれば、できるだけ前広にアナウンスをしていきたいと考えています。

(時事通信) そのほか、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(上定市長) ありがとうございました。